

中国の偵察衛星が常時台湾を監視

漢和防務評論 20180706(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

中国は、民用のリモートセンシング衛星を有事には軍用にも使えるようにしました。
特に対台湾作戦における衛星偵察の密度を濃くするためと推測されます。
中国の偵察衛星画像解像度は最近飛躍的に向上し、米国の水準まで向上した、と中国の専門家は述べています。

KDR 香港特電：

中国の権威ある戦略情報筋は：中国軍は、偵察衛星領域で”人民戦争”方式（註：軍が民間の衛星システムを軍事利用することを指す）を採用した、と述べた。中国軍は、自己開発した画像及びデジタル偵察衛星の解像度をすでに 0.3M 以下に向上させた。そして中国は、現在国内の民間需要及び海外の準同盟国に対して、解像度 0.5 乃至 1.0 メートル (M) の画像衛星を提供し始めた。すでにパキスタンとは解像度 0.5M の衛星輸出契約を締結した。現在、数は 1 基であるが、今後逐次追加される。中国国内の民用衛星市場には、極めて巨大な計画がある。最初の民用商業リモートセンシング衛星事業はすでに軍の承認を得た。この事業は、解像度 0.5M の光学衛星 20 基と解像度 1M のレーダー衛星 6 基でネットを構成するものである。平時の主要任務は、地震等の自然災害対処及び食料作物の生育状況の監視モニター等であるが、必要時には、”軍と共同し宇宙偵察戦力”の一部を担う。すなわち”宇宙人民戦争時代の到来”である。現在、米国の民用画像衛星の解像度は 0.3M に達している。

一般状況下においては、米国の軍事偵察衛星は毎日 2 回偵察地区上空を通過する。しかし上述の中国民用衛星ネットワークが完成すると、毎日同一地区を 6 回以上通過することができる。その上、軍用偵察衛星の偵察が加わると、同一地点に対する偵察が毎日十数回程度可能になる。

消息筋は次のように述べた：中国軍は解像度 1M の軍用衛星を逐次淘汰しつつあり、この市場を民間に開放した、と。なぜなら軍が使用するレーダー画像衛星、光学衛星の解像度がすでに 0.3M 以下に達し、今後は解像度 0.1M の衛星が続々と打ち上げられるからである、と。消息筋は、中国の偵察衛星の解像度が米国と同一水準に達していることを認めた。

中国軍は現在、リモートセンシング衛星で構成される自前の偵察衛星ネットワークを建設中である。近年来、中国軍は、衛星ネットワークの建設に力を入れてきた。通常、1 回のロケット発射で多数のリモートセンシング衛星を打ち上げる。リモートセンシング衛星は 3 個のグループに分けられ、それぞれ光学及びレーダー偵察、電子偵察、海洋偵察のネットワークを構成する。現段階は、9 基の衛星が完成し、それぞれの軌道でネットを構成している。リモートセンシ

グ衛星全体の数は、すでに 30 基以上に達している。

これらの衛星は、高度、軌道、角度がそれぞれ異なり、台湾に対する 24 時間監視体制の基本が完成した。消息筋は：ネットワーク衛星の最大の機能は、異なる機能の偵察衛星システム、例えば光学及びレーダー画像衛星が一体化することである、と述べた。レーダー画像衛星の軌道は太陽同期軌道であり高度が高く解像度は光学衛星に劣る。しかし台湾の広い地域を網羅することができる。

中国の軍民両用衛星の設計は、第 5 研究院が行った。同院には、多くの研究所が隸属しており、第 8 研究所が光学衛星用カメラの開発を行った。現在、解像度 0.1M の軍用宇宙カメラの開発を開始した。光学技術は中国に対する武器禁輸の範囲外なので、フランスの技術支援を受け、進歩が相当速まった。同研究所は、早期においてはロシアと密接な協力関係にあった。

また戦略消息筋は次のように述べた：現在、宇宙偵察戦力は、” 戦略支援部隊” の統制の下にあり、迅速に発展している。これ以前は、各軍兵種がそれぞれに衛星部門を有し利用していた。現在は、戦略支援部隊が偵察衛星を統一して掌握し、リアルタイムで必要な情報を提供している。宇宙偵察の主要戦力は、主として台湾軍事工業、軍事基地、武器試験場に対して 24 時間、全天候で偵察を行っている。このほか、日本、韓国に駐留する米軍の移動状況も偵察の主要目標である。米国の軍事工業生産情報は開放されているので、米国本土の軍事生産工場は重点偵察範囲には入っていない。

2014 年以降、北朝鮮は、中国の仮想敵となり、北朝鮮の核施設に対する偵察が議事日程に上った。2017 年、中印国境情勢が悪化し、インドの兵員移動状況が宇宙偵察の重要項目になった。

これらのことから、中国軍の宇宙偵察の実施基準は：平時は台湾に対して 24 時間、全天候での各種偵察を行う。また重要時期には、同時に日本、韓国の米軍、北朝鮮の試験場、中印国境を偵察する、というもの。

戦略支援部隊成立後、開発する衛星の種類がより明確になった。現在、さらに新しい多様化した衛星の開発が鋭意進行している。その中には電子偵察衛星、海洋偵察衛星が含まれる。後者は、海軍にサービスするだけでなく、ロケット軍が弾道ミサイルで米国空母艦隊を攻撃する際、目標指定に必要な情報を提供する。

戦略支援部隊は、事実上、聯合作戦部隊の一翼を構成する。即ち各軍兵種の関連人員は衛星から入手した情報を共有することになる。

以上